

「脳卒中と抗凝固薬」 に関する調査レポート

平成23年12月19日

株式会社QLife(キューライフ)

調査の背景

抗凝固療法に大きな変化が訪れている。これまではワルファリンが圧倒的なシェアを誇っていたこの領域だが、2011年春に上市されたダビガトランエテキシラート(以下、ダビガトラン)に続いて、間もなく上市されるリバロキサバンなど、新薬が次々と参入。脳卒中や心臓・血管系疾患における経口抗凝固薬の選択肢は大きく広がってくるといえるだろう。そこで、ダビガトラン発売から約9カ月が経過した現在における、脳卒中における抗凝固療法の現状、ならびに患者が経口抗凝固薬に求めるものなどを探っていく。

主な結論

現在、抗凝固薬を服用中の患者を対象としたこの調査を通して、抗凝固薬に対して、効果面では一定の評価をし、ほぼ全ての患者が指導された通りに服薬を続けているものの、食事制限などによるQOLの低下や、用量などが頻繁に変更されることの煩雑さの面などを中心に、半数以上の患者が不満を感じていることが分かった。しかしながら、それを医師に伝えているのは不満を持つ患者の半数にとどまった。さらに、現在発売されている2薬剤についても、それぞれ一長一短あることから、現状の経口抗凝固薬では、不満足点すべてを解消するに至っていないことが分かった。近い将来に発売される、リバロキサバンでは、これらの点が解消されていくのか注目していきたい。

- 1) 現在抗凝固薬を服用している脳卒中発症者の半分以上は、発症時にその原因となる心房細動を診断されていなかった可能性がある
脳卒中発症者のうち不整脈/心房細動に罹患している、と答えた患者は35%にとどまっていた。また約半数の脳卒中発症者が発症時に高血圧症に罹患。さらに25%が糖尿病だったと回答。
- 2) 脳卒中の再発への不安は大きく、そのためには定期的な通院・服薬が必要
脳卒中発症後は「再発の不安」が発症前と比べて約4倍に増加。再発を防ぐためには定期的な通院・健康診断とともに、定期的な服薬が必要と考えている。
- 3) ほぼ全ての患者が抗凝固薬を「指示通り」に服薬。しかし、「効果」の面以外では不満足を感じており、それを医師に伝えている患者は半数にとどまる
96%の患者が抗凝固薬を「指示通りに服薬」しているものの、過半数が「不満を感じたこと」があると回答。しかしながら、その不満を医師に伝えた患者は半数にとどまった。具体的な不満内容は、「食事制限」や「服用回数・用量」に関してQOLの低下に対する不満が多い。
- 4) 患者は不満点を解消する薬剤を望んでいるとともに、より多くの情報を求めている
「食事制限の無い薬」など、既存の抗凝固薬では解消できない、QOLの改善を求める患者が最も多い。さらに日常生活での相談など、多くの情報が提供されることを求めている。

【調査実施概要】

▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

▼実施概要

- (1) 調査対象: 抗凝固薬を服薬している全国のインターネット利用者
- (2) 有効回収数: 100人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2011/12/2~2011/12/5

▼有効回答者の属性

(1) 性・年代:

	男性	女性	計
30代	2	1	3
40代	10	2	12
50代	35	4	39
60代	44	2	46

(2) 居住地:

北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬
7%	1%	0%	1%	0%	2%	4%	3%	2%	1%
埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野
10%	5%	17%	5%	1%	1%	1%	0%	2%	0%
岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山
0%	3%	2%	1%	2%	3%	5%	4%	4%	1%
鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡
1%	0%	2%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	4%
佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄			
0%	0%	3%	0%	0%	0%	0%			

(3) 既往歴(複数選択)

Q.これまでに、いずれかの病気にかかったことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。

高血圧	51	51%
脂質異常症(高脂血症)	21	21%
糖尿病	27	27%
脳卒中(脳出血/脳梗塞/くも膜下出血)	37	37%
不整脈/心房細動	76	76%
胃潰瘍・十二指腸潰瘍	13	13%
ぜんそく	3	3%
がん	7	7%
心筋梗塞	6	6%
その他心臓疾患	23	23%
その他	5	5%
特にない	0	0%

▼有効回答者の属性(つづき)

(4) 服薬している経口抗凝固薬:

ワルファリン(ワーファリン)	93	93%
ダビガトラン(プラザキサ)	7	7%
その他の薬	0	0%
わからない	0	0%

	ワルファリン (ワーファリン)	ダビガトラン (プラザキサ)		ワルファリン (ワーファリン)	ダビガトラン (プラザキサ)
男性	84	7	30代	3	0
女性	9	0	40代	12	0
			50代	35	4
			60代	43	3

		ワルファリン (ワーファリン)	ダビガトラン (プラザキサ)
高血圧		45	6
脂質異常症(高脂血症)		21	0
糖尿病		26	1
脳 卒 中	脳出血(くも膜下出血等を含む)	5	0
	脳梗塞	29	2
	詳しくはわからない	1	0
不整脈/心房細動		69	7
胃潰瘍・十二指腸潰瘍		12	1
ぜんそく		3	0
がん		6	1
心筋梗塞		6	0
その他心臓疾患		23	0
その他		5	0
特にない		0	0

【調査結果の詳細】

<脳卒中発症者のみ>

1. 脳卒中の治療を受けた際に、どのタイプの脳卒中だったか憶えていますか。

2. 脳卒中になる前に下記のいずれかの自覚症状はありましたか。

- － 片方の手足・顔半分の麻痺・しびれが起こる(手足のみ、顔のみの場合もあります)
- － ロレツが回らない、言葉が出ない、他人の言うことが理解できない
- － 力はあるのに、立てない、歩けない、フラフラする
- － 片方の目が見えない、物が二つに見える、視野の半分が欠ける
- － 経験したことのない激しい頭痛がする

3. 何年前に、脳卒中を発症しましたか。

脳卒中発症者の4人に3人が発症前に「なんらかの自覚症状があった」と回答。また、脳卒中のタイプ別に見ると80%以上が脳梗塞であったことがわかった。

■脳卒中のタイプ

脳出血(くも膜下出血等を含む)	5	13.5%
脳梗塞	31	83.8%
わからない	1	2.7%
計	37	100.0%

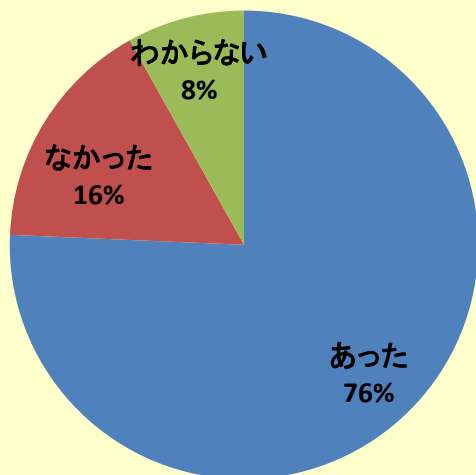
■発症時期

1年未満前	0	0.0%
1年～5年前	17	45.9%
6年～10年前	9	24.3%
10年～15年前	7	18.9%
16年～20年前	3	8.1%
21年以上前	1	2.7%
計	37	100.0%

■発症前の自覚症状

あった	28	75.7
なかった	6	16.2
わからない	3	8.1
計	37	100.0%

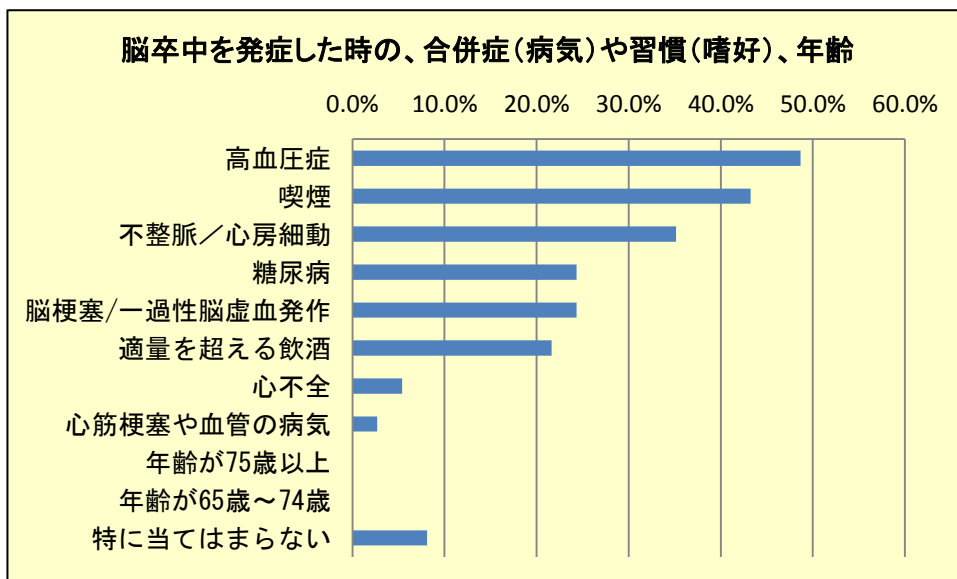
脳卒中発症前の自覚症状



4. <脳卒中発症者のみ>脳卒中を発症した時の、合併症(病気)や習慣(嗜好)、年齢について、あてはまるものを全てお選びください。【複数選択】

抗凝固薬を必要とする脳卒中の主な原因は心房細動であるが、発症時にその原因となる心房細動を診断されていた、もしくは認識していた脳卒中発症者は35%にとどまっていることが推測される。一方、半数近い脳卒中発症者が、発症時に高血圧症に罹患していたと回答。さらに約25%が糖尿病と回答し、生活習慣病が脳卒中と深く結びついていることが分かった。嗜好面については、喫煙が4割強、適量を超える飲酒が約2割と、こちらも関連性の高さをうかがわせる。

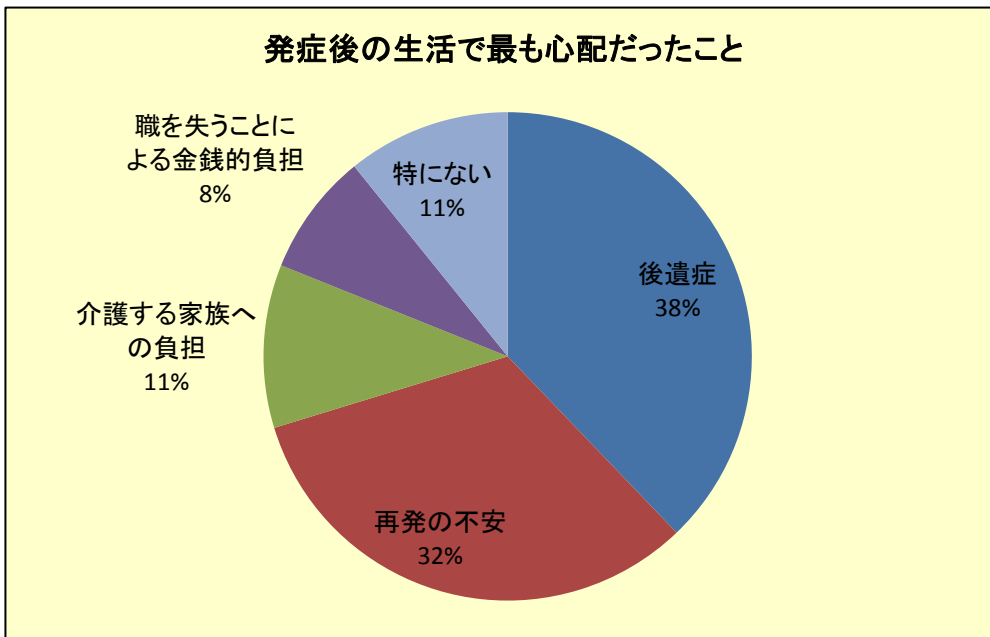
高血圧症	18	48.6%
喫煙	16	43.2%
不整脈／心房細動	13	35.1%
糖尿病	9	24.3%
脳梗塞/一過性脳虚血発作	9	24.3%
適量を超える飲酒	8	21.6%
心不全	2	5.4%
心筋梗塞や血管の病気	1	2.7%
年齢が75歳以上	0	0.0%
年齢が65歳～74歳	0	0.0%
特に当てはまらない	3	8.1%



5.<脳卒中発症者のみ>脳卒中を患った後、病後の生活で一番心配だったことは何ですか。

「後遺症」と「再発への不安」で合わせて70%以上となった。これは、未発症者が「介護する家族への負担」が一番心配だと回答した結果（詳細は設問6）と対照的な結果で、それだけ脳卒中の発症がもたらす自身の健康への影響と、その再発への不安は大きなものであると推察される。

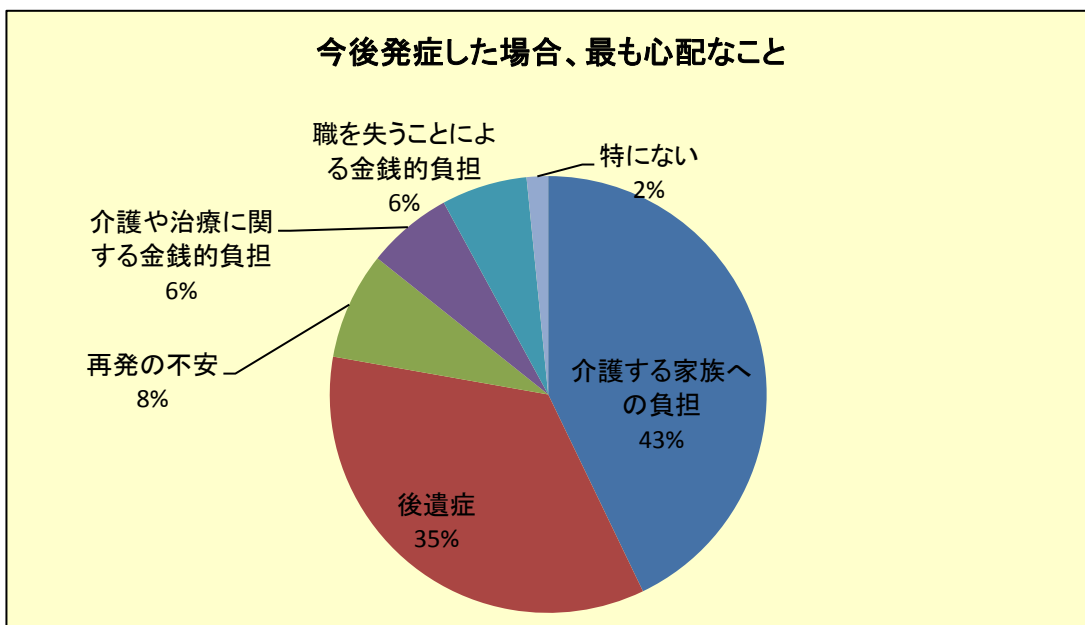
後遺症	14	37.8%
再発の不安	12	32.4%
介護する家族への負担	4	10.8%
職を失うことによる金銭的負担	3	8.1%
介護や治療に関する金銭的負担	0	0.0%
その他	0	0.0%
特にない	4	10.8%
計	37	100.0%



6. <脳卒中未発症者のみ>仮にあなたが脳卒中を発症したとしたら、病後の生活で一番心配になりそうなことは何ですか。

脳卒中未発症者に聞いたこの設問では、発症者対象では11%だった「介護する家族への負担」が40%強となった。そのほか、家族や金銭的負担を心配する、との答えが過半数となった。一方、発症者の3割以上が心配と回答した「再発の不安」は7.9%にとどまった。

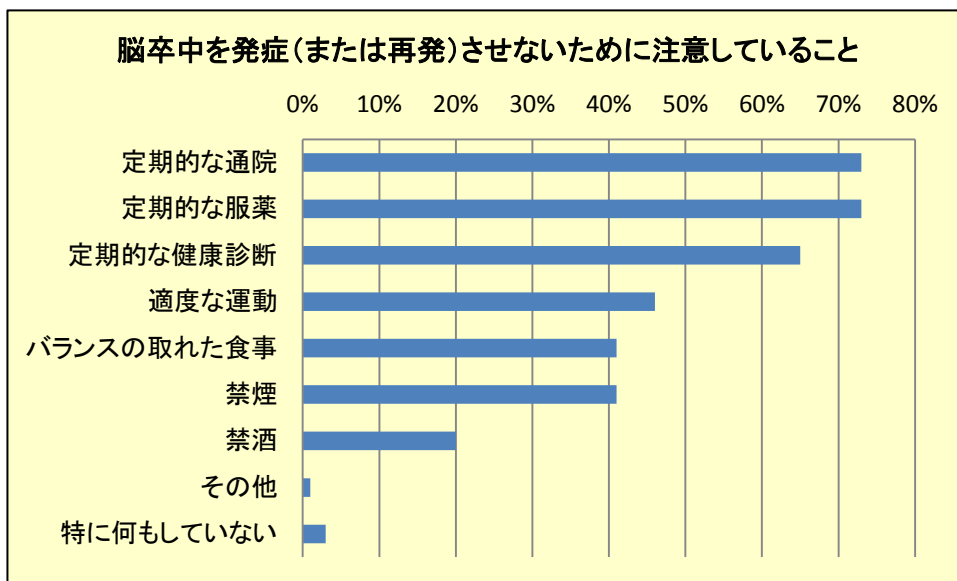
介護する家族への負担	27	42.9%
後遺症	22	34.9%
再発の不安	5	7.9%
介護や治療に関する金銭的負担	4	6.3%
職を失うことによる金銭的負担	4	6.3%
その他	0	0.0%
特にない	1	1.6%
計	63	100.0%



7.脳卒中を発症(または再発)させないために注意していることはありますか。あてはまるものを全てお選びください。【複数選択】

定期的な「通院」「服薬」「健康診断」がいずれも7割前後となり、日ごろからの健康チェックが発症または再発させないために重要なことだと考えているようだ。しかしながら、脳卒中の原因として上位に上がった(設問8を参照)「喫煙」に関して、「禁煙」は40%強にとどまるなど「分かっちゃいるけど止められない」といった一面も垣間見えた。

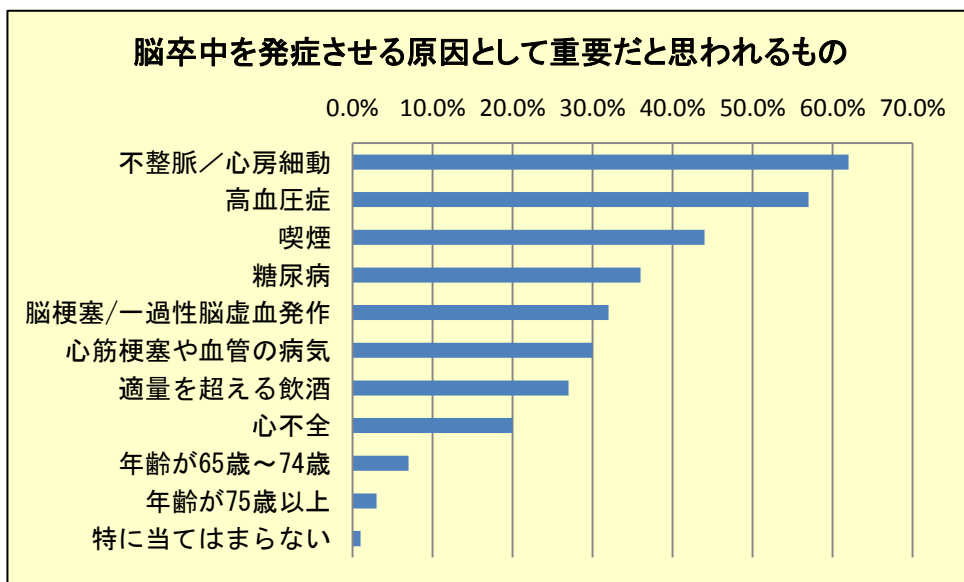
定期的な通院	73	73.0%
定期的な服薬	73	73.0%
定期的な健康診断	65	65.0%
適度な運動	46	46.0%
バランスの取れた食事	41	41.0%
禁煙	41	41.0%
禁酒	20	20.0%
その他	1	1.0%
特に何もしていない	3	3.0%



8.脳卒中を発症させる原因として重要だと思われるものを全てお選びください。【複数選択】

「不整脈／心房細動」が重要と認識している回答が最も多く、62%にのぼった。次いで「高血圧症」(57%)、「喫煙」(44%)と続いた。

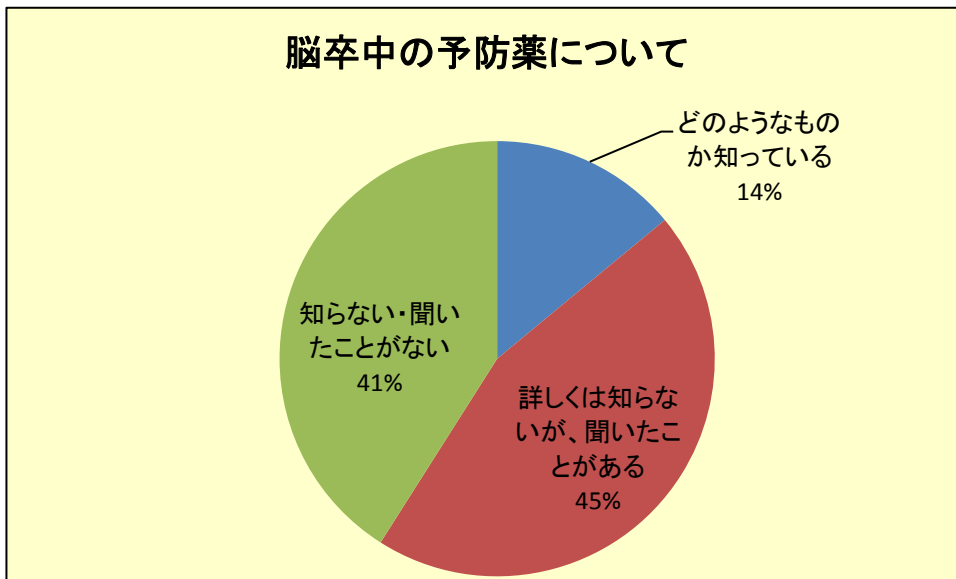
不整脈／心房細動	62	62.0%
高血圧症	57	57.0%
喫煙	44	44.0%
糖尿病	36	36.0%
脳梗塞/一過性脳虚血発作	32	32.0%
心筋梗塞や血管の病気	30	30.0%
適量を超える飲酒	27	27.0%
心不全	20	20.0%
年齢が65歳～74歳	7	7.0%
年齢が75歳以上	3	3.0%
特に当てはまらない	1	1.0%



9.脳卒中を予防するためのお薬があることを知っていますか。

「どのようなものか知っている」との回答は14%にとどまり、8割以上が脳卒中の予防薬について十分な知識を持ち合わせていないことが分かった。

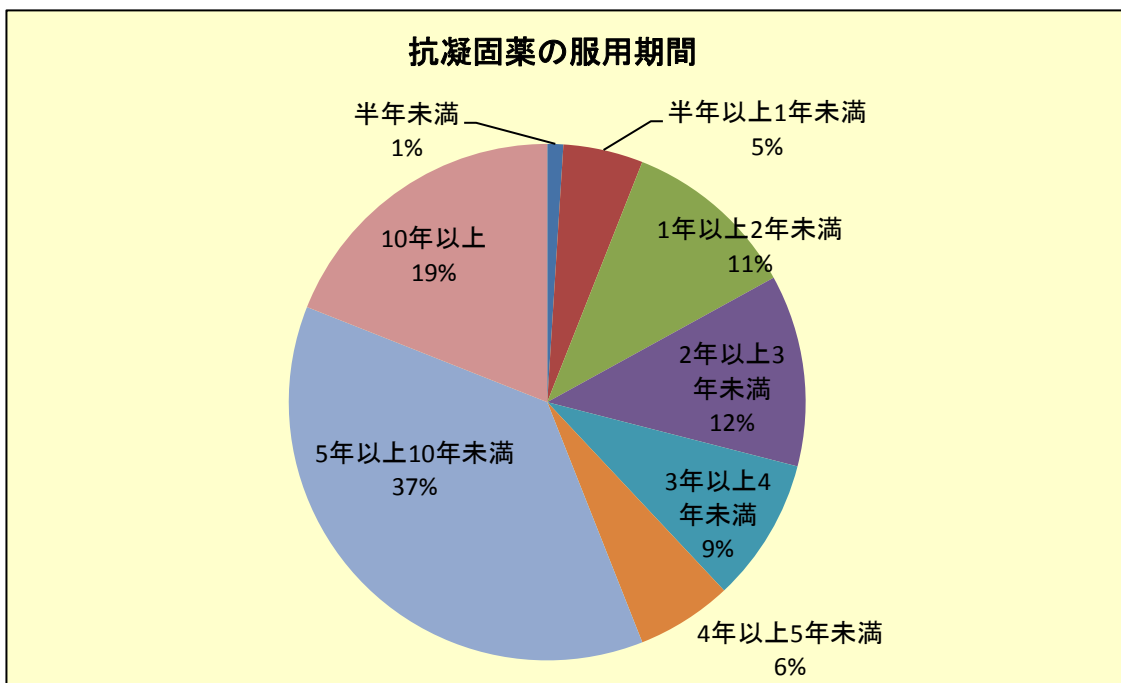
どのようなものか知っている	14	14%
詳しくは知らないが、聞いたことがある	45	45%
知らない・聞いたことがない	41	41%
計	100	100%



10.どれくらいの期間、「血液が固まる働きを抑えて、血液をさらさらにするお薬」を服用していますか。

「5年以上10年未満」「10年以上」で合わせて50%超と、長期にわたって服薬を続けている人が多いことが分かった。

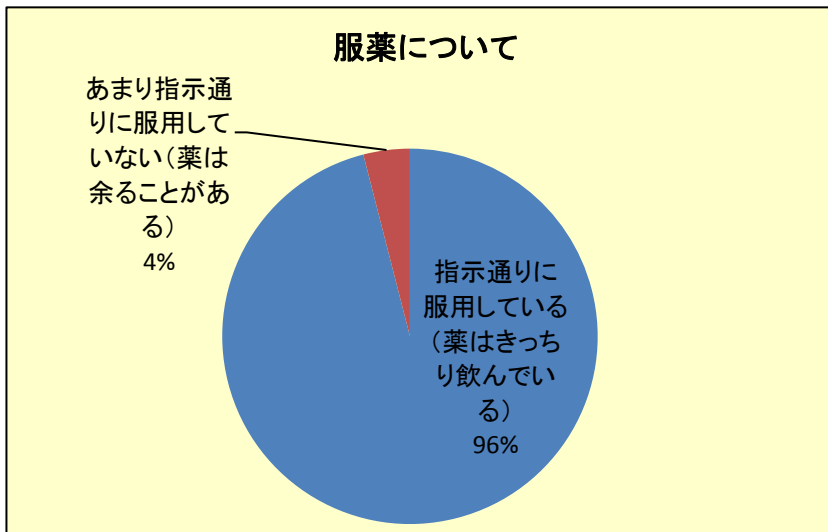
半年未満	1	1.0%
半年以上1年未満	5	5.0%
1年以上2年未満	11	11.0%
2年以上3年未満	12	12.0%
3年以上4年未満	9	9.0%
4年以上5年未満	6	6.0%
5年以上10年未満	37	37.0%
10年以上	19	19.0%
計	100	100.0%



11.毎日、医師の指示通りに、お薬を服用していますか。最も近いものを選んでください。

血液検査の結果によって、用量が変わるケースも多い経口抗凝固薬だが、「指示通りに服用している」との回答が96%という結果となった。服薬による効果発現に対し、大きな信頼を寄せていることが推察される。

指示通りに服用している(薬はきっちり飲んでい	96	96.0%
あまり指示通りに服用していない(薬は余ることがあ	4	4.0%
指示通りに服用していない(ほとんど飲んでいない)	0	0.0%
計	100	100.0%



- 12.服用しているお薬に関して、服薬指導は受けていますか。最も近いものを選んでください。
 13.誰から服薬指導を受けていますか。あてはまるものを全てお選びください。【複数選択】

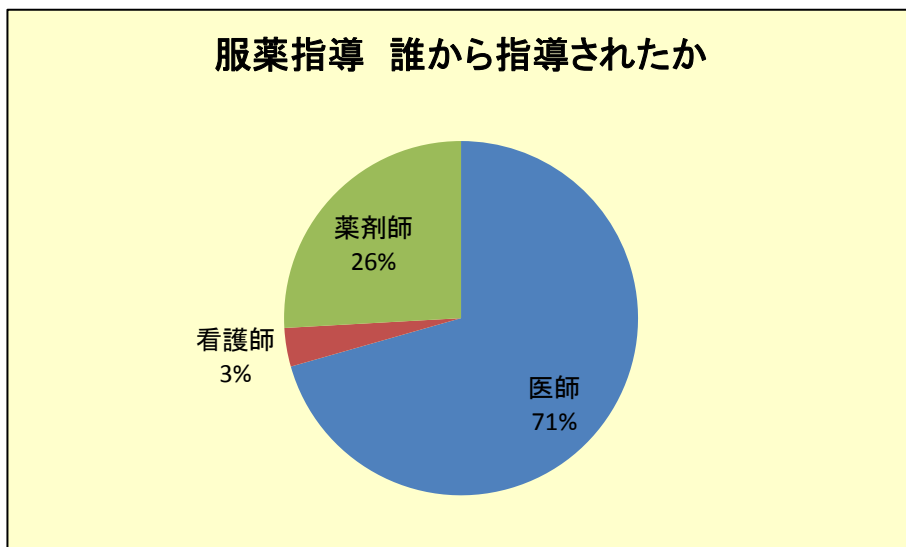
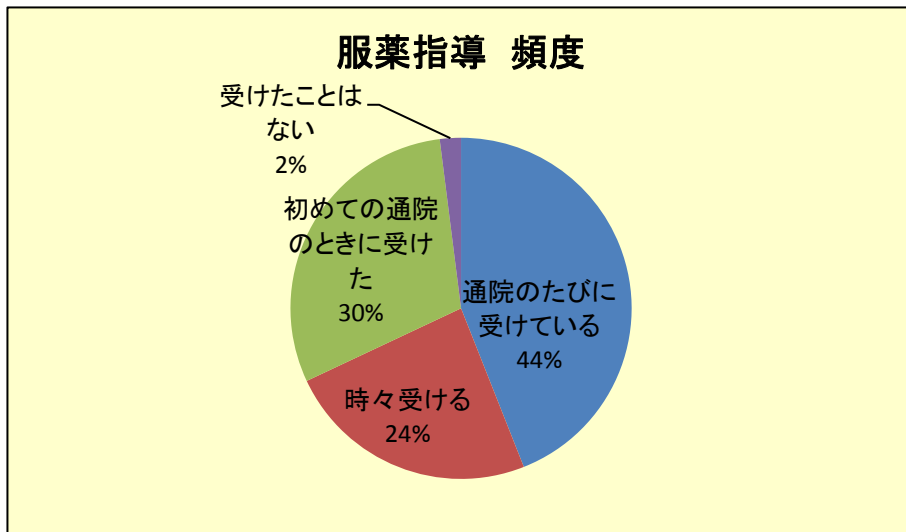
服薬指導の頻度については、「通院のたびに受けている」が44%で最も多い結果となり、また誰から指導を受けているかという質問に対しては「医師」が約7割を占めた。これは血液検査の結果により用量をこまめに変更するために、頻度が高く、また医師が直接服薬指導を行うことが推察される。

■ 頻度

通院のたびに受けている	44	44.0%
時々受ける	24	24.0%
初めての通院のときに受けた	30	30.0%
受けたことはない	2	2.0%
覚えていない・わからない	0	0.0%
計	100	100.0%

■ 誰から指導されたか

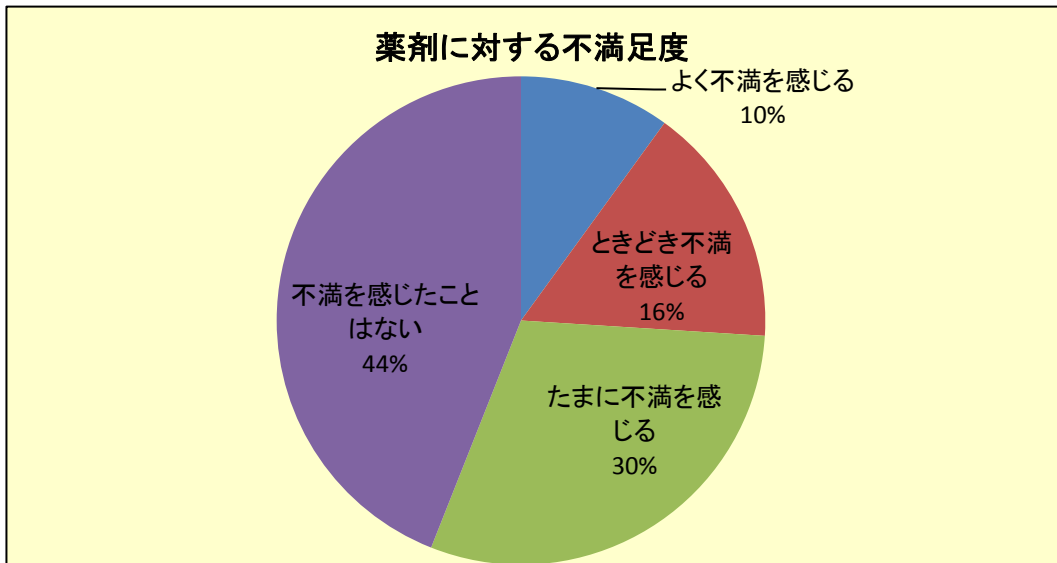
医師	60
看護師	3
薬剤師	22
その他	0



14.現在服用しているお薬に関して、不満を感じたことがありますか。最も近いものを選んでください。

何らかの不満をかかっている患者は全体の56%に上った。さらに10%が「よく不満を感じる」と回答。大多数が「指示通りに服薬している」とした設問11とは対照的な結果となった。

よく不満を感じる	10	10.0%
ときどき不満を感じる	16	16.0%
たまに不満を感じる	30	30.0%
不満を感じたことはない	44	44.0%
計	100	100.0%

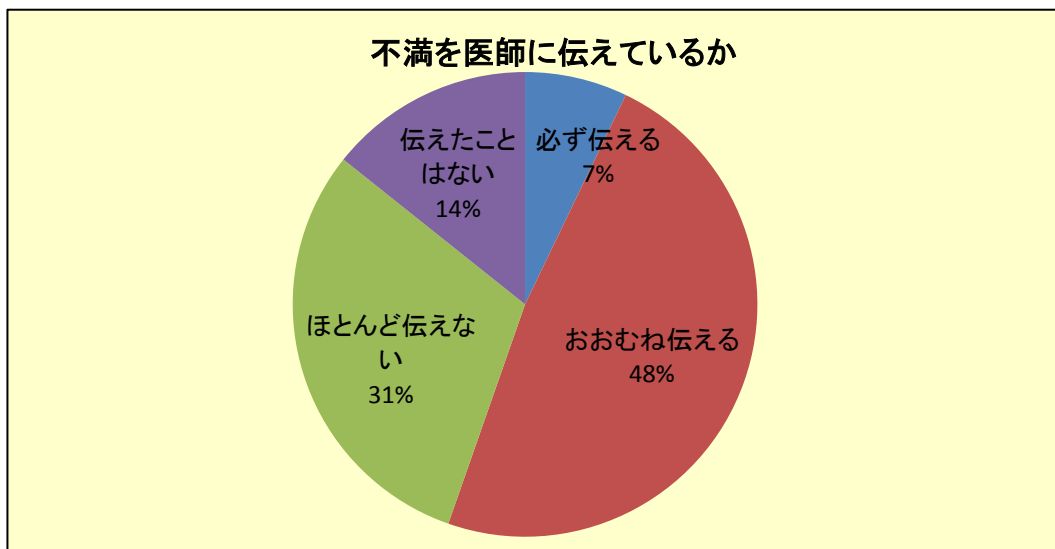


15.<設問14において「不満を感じる」と回答した方のみ>

「現在服用している薬に関する不満」を、医師に伝えていきますか。最も近いものを選んでください。

「ほとんど伝えない」「伝えたことはない」が合わせて45%となり、約半数が不満を医師に対し伝えていないことが分かった。設問14で56%の患者が「不満を感じる」と回答したことと合わせて考えると、約4人に1人の患者が、「不満を抱きつつもそれを医師に伝えることなく、自らの中に閉じ込めている」ということが推察される。

必ず伝える	4	7.1%
おおむね伝える	27	48.2%
ほとんど伝えない	17	30.4%
伝えたことはない	8	14.3%
計	56	100.0%



16.現在服用している薬やその服用方法について、「満足している点」は何でしょう。なるべく具体的に教えてください。

回答されたフリーコメントをテーマ別に集計したところ、効果に対して満足している回答が過半数となった。血液検査など、数値となって自身の状態が分かるシーンの多さがこの結果に結びついたと推測される。また、それ以外の評価については、それぞれの薬剤の特徴(1日1回服用、納豆が食べられる など)が色濃く出た結果となった。

■回答されたフリーコメントをもとにQLifeが集計
(2つのテーマを併記した回答は2人分として集計)

効果	54	53.5%
アドヒアランス	12	11.9%
QOL	6	5.9%
副作用	3	3.0%
価格	2	2.0%
分からない・特になし	24	23.8%

代表的なコメントを以下に挙げる。

【効果】

定期的に血液検査をしながら体調に合わせて飲む量を考えてもらっているので満足しています。	女	51歳 奈良県	ワルファリン
サラサラになる効果が十分にある。実績があるので安心である。	男	66歳 大阪府	ワルファリン
実際に血流改善がみられた。(MRIにて)	男	61歳 東京都	ワルファリン
効果が血液検査ではっきり出ている。	男	58歳 茨城県	ワルファリン
脳梗塞の再発防止になっているという数値(PT-INR)の安定	男	50歳 東京都	ワルファリン
再発もしていない自分にあっていると思う。	男	61歳 山形県	ワルファリン
医師の管理と血液成分の内容の説明により、ほぼ安心して服用できる。	男	67歳 東京都	ワルファリン
新薬のため有効ではないか。	男	68歳 群馬県	ダビガトラン

【アドヒアランス】

毎回検診の度に血液検査をして血の固まり具合を調べて薬の量を決めているが、これを守っていれば不整脈が起きて血が固まらず脳梗塞は起きないと言われていた。5粒で1粒の量の薬もあるので便利。	男	60歳 福島県	ワルファリン
一日1回の服用で、錠剤なのでのみやすい。	女	55歳 埼玉県	ワルファリン
1日1回の服用で大丈夫なところ	男	41歳 埼玉県	ワルファリン
量を変えなくて良いこと	男	58歳 東京都	ダビガトラン

【QOL】

定期の血液検査が不要になった。カリウムKを含む食品を食べられるようになった。とくに納豆が毎日食べられるので満足している。	男	55歳 千葉県	ダビガトラン
納豆を食べられるようになった、など、食事制限がないこと。	男	55歳 岡山県	ダビガトラン
食事制限がない。血液検査がない。	男	55歳 大阪府	ダビガトラン

【副作用】

慢性の不整脈なのでこの薬が必要 特に副作用も感じていない	女	45歳 奈良県	ワルファリン
今のところ副作用がない	男	67歳 神奈川県	ワルファリン

【価格】

規定量を一日に1回服用でいい。処方箋が2カ月とながい。薬価があまり高くない。	男	53歳 熊本県	ワルファリン
--	---	---------	--------

17.現在服用している薬やその服用方法について、「不満に感じている点」は何でしょう。なるべく具体的に教えてください。

不満点で最も多かったのが「QOL」に関する回答だった。具体的には「食事の制限」や「血液検査の頻度が高い」ことが挙げられた。次に挙げたのが「剤形の大きさ」や「服用する数の多さ」を不満に挙げた「アドヒアランス」に関する点。以下、「出血」に関する「副作用」と続いた。

■ 回答されたフリーコメントをもとにQLifeが集計
(2つのテーマを併記した回答は2人分として集計)

QOL	39	34.8%
アドヒアランス	22	19.6%
副作用	18	16.1%
価格	7	6.3%
効果	3	2.7%
分からない・特になし	23	20.5%

代表的なコメントを以下に挙げる

【QOL】

通常の生活において、「青汁、納豆、クロレラ」が禁忌食物である上に、野菜類に摂取制限があること。	男	67歳 東京都	ワルファリン
納豆が食べれない。怪我をすると血が止まらない、歯医者に行くとき必ず先生に伝える。	男	57歳 東京都	ワルファリン
微調整が必要で処方される度血液検査をしなくてはならないのがめんどろ	女	59歳 京都府	ワルファリン
2ヶ月に1度、定期健診の必要があることと、食事制限があること。	男	51歳 千葉県	ワルファリン
二週間分しか薬を出して貰えないので、通院回数が増える。薬がワルファリンより高価なこと。	男	55歳 千葉県	ダビガトラン

【アドヒアランス】

毎月の血液検査。薬の粒が大きい。	男	61歳 静岡県	ワルファリン
毎日服用しなければならない	男	62歳 北海道	ワルファリン
血液検査の結果、飲む量が変わることがある。青汁など食べることが好ましくない食物がある。	男	66歳 大阪府	ワルファリン
今はまだ二週間処方しかできないこと。	男	55歳 岡山県	ダビガトラン

【副作用】

なにか手術を受ける際には入院して経過を看なければならぬこと(お陰様でいまのところ大きな手術は受けていない)	男	60歳 東京都	ワルファリン
食事制限や傷の止血に時間がかかること。緊急な手術に対応出来ないこと。	男	46歳 北海道	ワルファリン
立ちくらみが多々ある。好きな食べ物が食べられない(納豆など)	男	54歳 兵庫県	ワルファリン
副作用があるので時々検査が必要	男	58歳 東京都	ダビガトラン

【価格】

値段が高いこと	男	54歳 東京都	ワルファリン
高価である。2週間分しか薬が出ない。	男	55歳 大阪府	ダビガトラン

【効果】

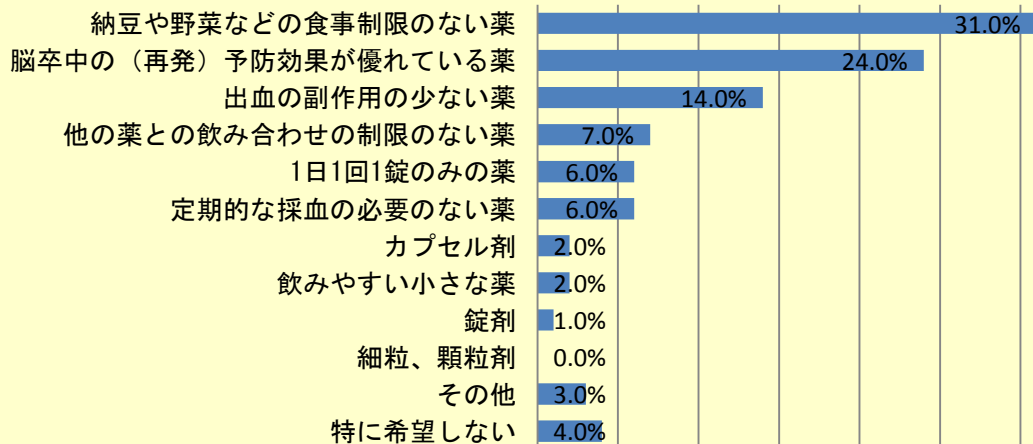
具体的効用が解らない	男	65歳 埼玉県	ダビガトラン
------------	---	---------	--------

18.抗凝固治療(血液が固まる動きを抑えて、血液をさらさらにする治療)で、新しいお薬を服用するとしたら、どのような薬が良いですか。最も強く希望する条件を教えてください。

最も多かった回答が、設問17の「不満に感じている点」でもトップになった「QOL」特に「食事制限」に関する要望だった。以下、「効果」「副作用」と続いた。「不満に感じている点」で約2割が回答した「アドヒアランス」に関しては、合計ではほぼ同様の割合に達したが、その詳細は「1日1回1錠」や「飲み合わせ制限」「カプセル」などニーズが分かれた。

納豆や野菜などの食事制限のない薬	31	31.0%
脳卒中の(再発)予防効果が優れている薬	24	24.0%
出血の副作用の少ない薬	14	14.0%
他の薬との飲み合わせの制限のない薬	7	7.0%
1日1回1錠のみの薬	6	6.0%
定期的な採血の必要のない薬	6	6.0%
カプセル剤	2	2.0%
飲みやすい小さな薬	2	2.0%
錠剤	1	1.0%
細粒・顆粒剤	0	0.0%
その他	3	3.0%
特に希望しない	4	4.0%
計	100	100.0%

新しい薬に期待すること



19.現在の抗凝固治療(血液が固まる働きを抑えて、血液をさらさらにする治療)に関して、サービスという視点から、改善してほしい点があれば、具体的に教えてください。

サービスの視点からの要望は大きく分けて「食生活含め日常生活の相談」「自身の状態・病気をより理解するための患者向け情報の充実」「事故や別の疾患で通院する際意思表示方法」についての要望が多く見られた。

以下に代表的なコメントを挙げる

医師には日常生活が見えていないので、これを補完する生活習慣の確認方法を検討して頂きたい。	男	56歳	栃木県
事故に遭ったときにいつでもどこでも他人でも応急手当ができるようにカードの携帯	男	60歳	東京都
患者説明用の資料で、分かり易い説明があれば良い。	男	63歳	富山県
薬をやめられるための代替治療の提案。	男	50歳	東京都
薬以外で日常の食生活の改善指導。	男	60歳	福島県
在宅で出来る相談等をして欲しい	男	59歳	静岡県
結果が理解できるような指標提示	男	69歳	神奈川県
血液検査をなくしてほしい	男	63歳	奈良県

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 田中 智貴
TEL : 03-5433-3161 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>
会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)
所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-16-5 さいとうビル4F
代表者 : 代表取締役 山内善行
設立日 : 2006年(平成18年)11月17日
事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業
企業理念 : 生活者と医療機関の距離を縮める
サイト理念 : 感動をシェアしよう!
URL : <http://www.qlife.co.jp/>